



# エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

環境大臣 松本 龍 殿

平成23年4月21日

株式会社ブリヂストン 代表取締役社長 荒川 詔 四

ブリヂストングループは、「未来のすべての子どもたちが『安心』して暮らしていくために…」という思いを込めた「環境宣言」に基づき、持続可能な社会の実現に向けて地球環境の保全及び、多様な生活者一人ひとりの安全と健康に配慮した企業活動を推進します。

## 1 循環型社会の実現に向け、リトレッドタイヤの展開拡大などの3R活動を推進します。

- トラック・バス用タイヤにおけるリトレッドタイヤ(摩耗したタイヤの接地面へ新たなゴムを張替え再利用できるようにしたタイヤ)の国内での販売比率を2015年までに35%まで拡大します。さらに、最適な「メンテナンスサービス」と「新品タイヤとリトレッドタイヤ」を組み合わせた当社の先進的なソリューションビジネス「エコバリューパック」の展開拡大を推進し、2015年までに国内での契約台数を18万台まで拡大します。
- 空気圧がゼロになっても所定のスピードで一定距離を走行できる「ランフラットタイヤ」の展開により、ほとんど使われずに廃棄されるスペアタイヤをなくす事が可能になります。廃棄物削減へ貢献するべく、販売量(市販用)をグローバルで2009年対比2015年までに2倍以上を目指します。
- 当社独自技術により電力を消費せずに表示を維持する電子ペーパー事業の拡大展開により、省エネ・ペーパーレス社会に貢献します。
- 分別の徹底などの3R活動を推進するとともに、仕損率低減などモノづくりでの廃棄物削減に取り組みながら、国内グループ全体でのゼロエミッション活動を維持継続します。

## 2 自然共生社会の実現に向けた、生物多様性の保全活動を推進します。

- グローバルに広がるネットワークを活かし、生物多様性保全活動を継続的に世界中に広げていくことに努めます。(タイ:自然農業教育センター、アメリカ:野生生物の生息地保全など)
- 当社の低燃費タイヤブランド「ECOPIA」の売上の一部を用いて全国各地で森林整備を行う社会貢献活動「B-フォレスト エコピアの森プロジェクト」の拡大や琵琶湖の生態系を保全する「ブリヂストン びわ湖生命(いのち)の水プロジェクト」などを通じて、地域の文化とそこにある生態系、種、遺伝子の多様性を理解し、生態系の保全に貢献していきます。
- 早稲田大学とブリヂストンが連携した環境に関するプロジェクト「W-BRIDGE」による生物多様性に関する研究や教育活動などを通じて、生物多様性の重要性をグループ内外に伝えることによってグローバルでの生物多様性の保全に貢献していきます。

## 3 地域社会や子どもたち、従業員とともに環境意識を醸成する独自の環境コミュニケーションを推進します。

- 子どもたちが地球環境の大切さを考える機会として「子どもエコ絵画コンクール」の開催や、地球温暖化問題へ理解を深める「子どもエコ総合学習」を、当社事業所近隣の小学校で開催し、子供たちの環境意識の醸成に貢献していきます。
- 栃木工場にて実施している「グリーンハーモニープラント活動」など、地域社会と従業員が一体となった環境コミュニケーションをグローバルで推進していきます。
- グローバルで展開しているエコドライブキャンペーンにより、環境負荷を低減する車社会の形成に貢献します。

## 4 低炭素社会の実現にむけ、海外も含めたグループ全体で「CO<sub>2</sub>削減目標」の取り組みを推進します。

- 基準年度を2005年として2020年までに、全製品を対象としてその原材料調達から生産、流通、製品廃棄にいたるモノづくりの過程で排出されるCO<sub>2</sub>を売上高当たり35%低減します。
- 基準年度を2005年として2020年までに、車両の燃費に影響するタイヤの転がり抵抗を25%低減し、顧客の使用時にモノづくりで排出される以上のCO<sub>2</sub>削減を目指します。

ブリヂストングループは上記取組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。